

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 3月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102198
法人名	松栄グループ有限会社
事業所名	グループホーム ながよ
所在地	長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷592番地1 (電 話) 095-887-5810
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 2月 21日

【情報提供票より】（平成20年1月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 17人, 非常勤 9人,	常勤換算 6.65人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	4階建ての 2～4階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	33, 000円		その他の経費（月額）	円	
敷金	無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200円	昼食	400円	
	夕食	400円	おやつ	円	
	または1日当たり1, 000円				

（4）利用者の概要（ 1月 1日現在 ）

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名
要介護 1	3 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	9 名	要介護 4	8 名		
要介護 5	3 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 85.73 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	長崎北徳州会病院：長与病院 女の都病院 田川療養所 野島歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長崎県北部のベッドタウンである長与町の中心部に位置し、役場、商店、公園などへの利便性は良好である。3ユニットはそれぞれ個性があり、ユニットごとに理念の一部を掲げて日々取り組んでいる。施設長は職員が相談しやすい関係を構築しており、また日々の報告書に確認印があるなど施設長と職員が一丸となったグループホーム運営に対する前向きな姿勢がある。利用者本人を中心とした生活をするという考え方で支援しており、工夫がみられる。家族との関係作りもできており、亡くなられたり、退所された利用者家族がその後も来所されて職員と懇談するなど心の通い合う支援がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	昨年の外部評価の改善点については栄養士や主治医の指導を受け改善に向けて取り組んでいる。ただし、職員においては外部評価の意義について義務的な意識が強くあまり理解されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回の自己評価は、各ユニットのリーダーが作成し職員へ回覧しているが、職員に周知されていない。昨年は外部調査後に職員全員での自己評価作成が実施されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は昨年12月に1回目が開催された。利用者家族、長与町職員、地域代表者、事業所代表、管理者で構成され、議題は運営理念、本年度の努力目標、職員構成、年間行事報告、各研修実施内容の報告、利用者の1日の流れ利用者の入居状況等であった。改善や要望については出ていないのが現状である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 意見や苦情については管理者が受け付け窓口となっている。重要事項説明書に社会福祉協議会や長与町役場住民福祉課、国保団体連合会などの外部の窓口も記載されている。苦情は現在のところ出ていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 小学校の体験学習、大学生の実習、保育園児のひな祭り、敬老の日などの定期的訪問を受け入れている。また、地域の方の餅つきへの参加など地域との交流が有る。散歩時には積極的に地域の方にあいさつの声かけなど交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全体の運営理念として「安定と軽減と穏やかな生活」を柱に、5つの基本方針がある。そのうち2階は「ゆったりと楽しい家庭的な雰囲気作り」3階は「ささえ愛で暮らしの喜びと自信」4階は「いつも同じなじみの環境」とそれぞれに基本方針を持っている。ただし、地域密着型の理念としての検討はまだ行われていない。	○	地域密着型としての理念として再度検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度のユニットごとのミーティングやカンファレンスの際に理念について話をしている。また、所長からは折に触れて理念の話があり、職員は理念を共有している。理念の具体的実践として日々の生活での些細な変化も見逃さない早期の気づきにより、重度化せず生活の継続ができるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の体験学習、大学生の実習、保育園児のひな祭り、敬老の日などの定期的訪問を受け入れている。また、地域の方の餅つきへの参加など地域との交流が有る。散歩時には積極的に地域の方にあいさつの声かけなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の改善点については栄養士や主治医の指導を受け改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価は、各リーダーが作成し職員へ回覧しているが、職員に周知されていない。昨年は外部調査後に職員全員での自己評価作成が実施されている。外部評価の意義について義務的な意識が強くあまり理解されていない。	○	外部評価はあくまで自己評価の補完であり、利用者の方々へのサービスについて自ら気づく機会でもあるため外部評価の本来の意義について検討が望まれる。また、職員全員での自己評価作成は外部評価前に実施し、実際のケアに活かせる実のある自己評価になるよう期待したい。

グループホーム ながよ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年12月に1回目が開催された。利用者家族、長与町職員、地域代表者、事業所代表、管理者で構成され、議題は運営理念、本年度の努力目標、職員構成、年間行事報告、各研修実施内容の報告、利用者の1日の流れ利用者の入居状況等であった。具体的な検討事項はまだ出ていないが、今後のサービス向上に向けて取り組む良い機会と捉えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長与町役場とは介護保険更新時に行き来する機会があり、事業所の質の向上に取り組んでいる。また、所長は長与町主催の勉強会の講師を受託しており長与町の福祉の質の向上のために連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の際にリーダーや職員が日ごろの様子を伝え情報交換を行っている。入所して直ぐは、当日の様子を電話で伝えている。月に一度は便りや写真、担当者からの日常の様子を伝える手紙を送り喜ばれている。金銭出納の報告も行っているが領収書は添付されていない。	○	金銭出納報告時の領収書コピーの添付については不要と考える家族もいるため、送付先の家族の希望を聞くことが望まれる。希望する家族には領収書のコピーを添付し明細をわかり易くすることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に職員と話をする機会を持ち、意見を直接聞いている。また、意見や苦情については管理者が受付窓口となっており、重要事項説明書に社会福祉協議会や長与町役場住民福祉課、国保団体連合会などの外部の窓口も記載されている。苦情は現在のところ出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動は行われていない。退職の場合、家族へは1ヶ月前に知らせており、利用者には辞めることは直接伝えずダメージが無いように全体で対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修について年間計画が立てられている。研修委員を決め情報を流し希望の研修がうけられる様、ユニット毎にスケジュール調整し協力しあっている。研修は留守番を除き全員出席を基本に実施している。月に1度の勉強会で研修内容を発表し共有している。新人は内部研修後1ヶ月は担当につき、夜勤は2人体制で業務を行い働きながらトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年末、時津・長与地区の11施設でグループホーム連絡協議会を設立し、施設長が代表となっている。長崎では13のグループホーム経営者勉強会があり、各施設から実行委員を出して計画をたてている。前回、外部講師を招いて感染症事例を通して注意を促すなど、同業者交流の機会を多く持ち互いに情報交換する場を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各ユニットは利用者それぞれの希望について個別に対応している。外出希望の場合は一緒に近所を散歩したり、買い物に行ったりしている。これまでに夜間帰宅願望がある利用者を家族と話し合っ自宅に戻したことがある。利用者の希望を聞きいれ、職員と一緒に時間をかけて馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を支援するだけでなく、日々の暮らしを共にすることで、利用者の昔の体験談を聞いたり、料理のゆで方・きり方、味付けのアドバイスや干し柿づくりなどを教えてもらっており、互いに支えあう関係作りを大切にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1度の会議で職員が普段接する中で気付いた事などを意見交換し、利用者のより良い暮らし方について話し合っている。言葉の不自由な利用者の場合は、日々の行動や表現から汲み取ったり、ご家族の方に連絡しながら、思いや意向の把握に努めるよう努力がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して暮らせるように家族やかかりつけの医師、作業療法士の意見を参考のもと職員で話し合い、それぞれに合わせた介護計画を作成している。また可能な場合は利用者の希望を聞き取りしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度職員で話し合い、家族や医師からの情報も含め情報交換のもとで計画の見直しを行っている。状態が変化した際は、その都度カンファレンスを行い、継続の利用者においても、現状に即した新たな計画を作成している。退院後はその都度職員が話し合い、計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望があれば結婚式や法事、買い物、美容室、自宅にも連れて行くなど柔軟な支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先し、かかりつけ医を受診している。加えて緊急時に対応できるよう事業所の医療機関との関係も築いている。また、かかりつけ医が遠方の場合は、家族と十分に話し合い了解のもと、協力医へ変更してもらっている。通院に同行する職員についてはあらかじめ勤務表作成時に優先して組むなど、適切な医療受診ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	生活ターミナルを目標に口から物を食べられるまでは支援する。それ以降は病院へ移るという重度化、終末期の指針を定めている。家族には説明し、看取りについての同意も取っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩として尊敬しており、言葉や声かけには十分注意を払っている。個人の記録や情報、薬の保管は所定の保管場所が定められている。また、職員は入社契約書で個人情報の取り扱い、退職後の守秘義務の取り決めが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	”今日はどうするね”から1日が始まり一人ひとりのリズムに合わせて、ペースを大切にしている。食事だけは他の利用者と一緒に取るが、それ以外の過ごし方、起床時間や就寝時間も自己判断に任せており、その日の本人の気持ちに沿った支援がされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるようにその都度献立を作り買い物に出かけるため、各ユニット毎に違うメニューとなっており、利用者の好みを取り入れることができています。利用者と職員が一緒に食事や後片付けをしている。誤嚥がないよう利用者に合わせトロミ、刻みの食事も提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回だが、本人の希望があればいつでも入浴できる対応がされている。入浴の順番は希望があれば取り入れるなど入浴が楽しめるように支援している。入浴拒否などの場合は清拭や足を洗うなどの支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が楽しめるように職員全員が日々話し合い、洗濯物やタオルたたみ、食事の後片付け、誕生日のケーキ作り、貼り絵などしている。時には地元の音楽家を招いて演奏会を開いたり、かけ算ドリルなどそれぞれに合わせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に2～3回散歩、買い物に出かけている。病院の帰りには少しドライブをして気分転換をはかり、買い物をするなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけないケアがなされている。徘徊のある利用者には職員が可能な限り付き添う支援をしており、また、不眠等の症状がある場合は医師と相談するなどして、鍵をかけない自由な暮らしを支援する努力をしている。		

グループホーム ながよ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。その内1回は消防署立会いで行っており消防設備や消火器の使い方の説明を受けている。夜間想定での避難訓練も実施している。また緊急時のマニュアルを作成し職員で共有化している。3階、4階には緊急対策として救急袋が備えつけられている。訓練は事前に地域へ報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスに気をつけ30品目の食材を心がけて献立を作成している。食事量、水分量は記録しており、特に発熱時には水分量を詳しく記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには家族からプレゼントされた花々が植えてあり、リビングはバリアフリーで畳もあり、健康を考えた加湿器も備えてあるなど季節感を採りいれながら快適な生活空間となっている。利用者作成の小物や行事の写真が壁に貼ってあり心地良く過ごせる工夫がされている。カーペットが汚れ易いとのことで張替えを考えている。ただし、掃除回数が朝1回であり、ゴミやホコリなど衛生面での不安がある。	○	快適な共有空間の基本である衛生面の不安を取り除くためにもこまめな清掃が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室日当たりが良く、利用者それぞれが使い慣れた小物や写真他馴染みの物を置いてある。また、部屋の入り口に利用者の写真が貼ってあり、間違えないよう工夫がされている。		

※  は、重点項目。